

北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト

(実施期間：2015年12月～2021年8月、担当業務：野菜栽培)

業務背景

ウガンダ北部アチョリ地域では、約20年間の内戦が続いた後、2006年8月以降治安は改善されたものの、依然として貧困率が60%以上という高い状態が続いていた。この地域では、労働力人口の約9割が農業に従事しており、その7割以上が小規模自給農家である。貧困削減と国内の南北格差是正の観点から、小規模農家への生計向上支援は重要な課題であった。そこで本プロジェクトでは、アチョリ地域の8県において、「市場志向型野菜栽培による収入向上」と、「食料・家計管理や栄養・食習慣の改善による生活の質向上」を両輪とする「生計向上アプローチ」を開発し、県の普及員と協力して普及活動に取り組んだ。

業務概要

市場志向型野菜栽培を推進するため、プロジェクトの1年目には適応技術の開発と普及員の能力強化に取り組み、2年目から普及員と共に農家研修を実施した。技術開発においては、資金力や労働力が乏しい自給農家を取り組みやすいよう、現地で調達可能な資材で、単収と品質向上を目指した小規模集約栽培の技術を提供した。農家研修では、まず市場調査を実施し、市場ニーズを把握した上で栽培品目を選定し、マーケティングの重要性を意識させた。栽培から販売までの一貫した市場志向型野菜生産を学ぶと共に、収支計算や営農計画作成を取り入れ、販売を見据えた計画的な栽培方法の習得を目指した。「生活の質向上」分野では、野菜栽培で得られた収入を家族のために有効に活用できるよう、家計管理やジェンダー・弱者配慮、食料備蓄管理、栄養改善などにも取り組んだ。「家族の幸せのために」というスローガンのもと、コロナ禍でも活動を継続し、アチョリ地域8県で2,300人を超える農家に研修を実施した。野菜生産面積は約135エーカー(54ヘクタール)、生産量は527.4トン増加した。また、農家の家計収入は75%向上し、研修後2年目でも、63%の農家がプロジェクトで学んだ活動を継続しているという結果が得られた。

担当事項

- 当該地域に適応する市場志向型野菜栽培技術の開発
- 展示圃場の設置・運営・技術指導
- 市場志向型野菜栽培技術に係る普及員の能力強化(現地研修・集合研修の実施)
- 農家研修に供する技術研修教材の開発(紙芝居型講義ツールなど)
- モデル農家グループに対する技術研修の計画・実施・技術指導
- 普及員向け技術普及ツールの開発(ハンドブック・デジタルツールなど)
- ビジネスフォーラム・農業資材ディーラーフォーラムの立案・計画・実施

Photos



適正技術開発のために農家圃場に設置した試験区



普及員に対する能力強化研修



農家グループへの研修



市場調査実習